

第3回「道史編さんに関する有識者懇談会」議事概要

日時：平成29年10月30日（月）10:00～10:40

場所：ホテルポールスター札幌 4階ラベンダー

【挨拶】

（辻副知事）

議事1 道史編さん大綱（検討案）について

事務局より説明（略）

【主な意見】

（横井委員）

- 全体としてはこの案で結構かと思う。第4（道史の構成）のところで「現代史」と入れられているが、戦前から書き始めた方がいいというご意見もあった。大綱とした場合の現代史の捉え方がいろいろになるといけないので、もう少し限定付けを加えた方がいいのかという感想を持った。

議事2 道史の刊行形態について

事務局より説明（略）

【主な意見】

（山崎委員）

- 前回の繰り返しになるが、もし様々な可能性があるとしたら、是非トピック型をベースにして英語版の作成というのをお願いしたい。これから北海道の歴史や文化を広く発信していくことが必要になる。北海道はどういうところか、道政の関連の中で紹介することは少なくないこともあわせ、幅広い視点で前向きに検討いただきたい。
- CD版・DVD版やウェブサイトという形で、狭く本に限らない形での公開・公表のあり方も前向きに検討して頂きたい。すべてをCDあるいはウェブ版をやるというやり方のほかに、例えば現代史の資料編をCDにするとか、臨機応変なやり方もある。

（横井委員）

- 先史以降のところはかなり研究が進み、新しい研究成果を取り入れなければならないという話をしてきたが、図録型では最新の研究成果を入れるのに難しそうな気がする。通史型にして、新しい成果を取り入れるのが順当なやり方ではないか。トピック型でもできるのかもしれないが、私の感覚としては通史型になる。

（坂下委員）

- 概説書という言い方では、現代史の要約みたいに捉えられがちなので、違う言葉で表現した方がよいのではないか。
- 通史型の場合はなんとかなると思うが、そうでない場合には、専門の方に一緒に入ってもらうレイアウトを考えることが必要ではないか。

議事3 各編さん組織の構成

事務局より説明（略）

【主な質疑応答】

(小内委員)

- 各分会の専門委員と調査執筆委員の関係について、どういう関係にあるかもう1度説明してほしい。専門委員は執筆をしないのか。

(事務局)

- 専門委員は編さん全体に関わり調査・執筆・企画・調整を行う。調査執筆委員は担当する分会の巻だけに責任があり、調査と執筆を行う。

(横井委員)

- 資料4で、全体としては少しずつずらして進めていくということだが、事務局の体制の問題もあるのだろうが、調査は同時に始めるのに、選別決定の作業を1年ずつずらしていく理由がよくわからない。

(事務局)

- 事務局の体制として、資料整理や筆耕などもあり、少しずつずらした方が体制的には楽というところがあったが、進み具合によってはできるだけ前倒しで早い時期から進めることはあり得る。まだ事務局だけで作ったたたき台なので、これから十分検討していただきたい。

議事4 その他

事務局より説明（略）

【質問】

なし

(辻副知事)

- これまで3回にわたり有識者懇談会議を開催し、貴重なご意見をいただいた。50年に1度の事業の骨格を方向づけることができ、お礼を申し上げる。皆さま方には、来年度からの道史編さん会議の委員として、あるいは編さん業務の中核である専門委員として、引き続き道史編さんに関わっていただければと考えている。後世に誇れるような、価値ある道史を道民に届けられるよう、これからもお力添えをお願いしたい。